

令和4年度 第1回 松本市多文化共生推進協議会会議録（要旨）

1 日時

令和4年9月2日（金） 午後1時30分～3時30分

2 場所

パレア松本 ネットワーク室

3 出席委員(12名)

会長	佐藤 友則	委員	陳 思静
委員	中村 純子	委員	持山 シャロン
委員	村井 博子	委員	松井 一晃
委員	江森 一	委員	美甘 直子
委員	太田 文雄	委員	押見 勇希
委員	マキナリー 浩子	委員	白井 雅彦

4 その他出席者

松本市地域日本語教育コーディネーター 佐藤 佳子

5 事務局

住民自治局人権共生課	課 長	清沢 卓子
同上	係 長	北原 優子
同上	主 任	梶山 直樹
同上	事 務 員	井坂 麻衣子

6 会議次第

(1) 開会・あいさつ

(2) 会議事項

ア 令和4年度地域日本語教育推進事業について

イ 令和4年度キーパーソン事業について

ウ その他

(3) 閉会

7 会議の要旨

次ページ

事務局

(「令和4年度地域日本語教育推進事業」について、資料を用い事務局から説明)

松本市地域日本語教育コーディネーター

先ほど事務局からご説明いただきました資料ですが、もう少し私から補足をさせていただきたいと思います。資料1のスライド2からです。まず私ですけれども、現在長野県の県全体の総括コーディネーターとして日本語教育事業に携わっております。県のコーディネーターとして、令和元年からこの県のモデル教室に関わっております。

また、松本市としても、今回こういった形の教室を開くのが実は初めてではなく、平成26年から28年の3年間にも同じように、コーディネーターがいて、教師がいて、日本語交流員のような会話相手がいる、このような教室を3年間実施しました。

それは松本市として、文化庁から補助をいただいていたわけですが、今回の文化庁の「地域日本語教育の体制づくり推進事業」では、県と政令指定都市しかその事業に申請をすることができない形となっております。今回長野県がその事業を受託しまして、各市町村に事業を下ろしていく、その第1号が松本市となっております。

実は昨年までの令和元年から令和3年までの3年間は、県からCTNが受託をしてまいりました。当初はですね、地域の日本語教室でも課題となっていました、技能実習生を受け入れて、技能実習生の日本語能力を向上させたり、あるいはそれによって地域の方との交流を図る、というような教室を行ってまいりました。

今回の市の教室では、第1次多文化共生推進プランの時から課題になっているキーパーソンに焦点を当てて、もちろん日本人のキーパーソンの活躍も期待するんですけれども、より今後外国の方たちにキーパーソンとして、この地域で活躍していただきたい。そのためには、やはりそういった方たちに、ある程度のサポートが必要であろうというところから、この日本語教室を考え、こういった形に至っています。

今年度初めてですね、松本市としてこういった形での事業を実施しますが、日本語教師と交流員のみは、2分の1補助金が県から来るんですけれども、コ

ーディネーター等は独自の市の予算として組んでいる部分がかかなり大きくございます。

そもそもこのコーディネーターがいて、教師がいて、交流員がいるという形は、松本市独自のものというよりは、もう平成31年にですね、文化庁が例として、こういった形をあげております。結局、学習者が日本語教師とだけ話すことができている、地域に戻った時に交流ができない、話すことができない、というのではいけないので、教室の中に地域の日本人の方たちにも入っていただいて、パートナーとなってコミュニケーションを図り、日本語の定着も図っていく、という形になっております。

続きましてスライド3ですが、日本語教師が教え、日本語交流員が学習をサポートする形の教室というのは、先ほどご説明した通りですが、既に日本語教師2名の方に依頼を行っております。

続きましてスライド4の中級レベルと上級レベルの説明です。前回の会議の中でもご質問いただいた部分かと思っておりますが、現在文化庁で「生活者としての外国人」の自立した言語使用者のレベルがB1からB2レベルと設定がしてあります。それは「日本語教育の参照枠」といったCEFRというヨーロッパのレベルに基づいた枠組みの日本語版でして、A1が一番入門でA1A2B1B2C1C2と6段階に日本語能力を分けています。その真ん中B1B2ぐらいがあれば自立した言語使用者として、地域でコミュニケーションが取れるだろうということなのですが、やはり今回キーパーソンとして情報を繋いでいただくような皆さんであるならば、やはりB1B2、あるいは上のクラスであればそれ以上のレベル、具体的にはB2からC1ぐらいまでを想定しております。

ただ、こればかりは募集をしてみて、結果的にどういうレベルの方たちが集まってくるかということにも大きく左右されてきます。日常会話ができなければ、なかなかこういった講座を受けることは難しいので、少なくとも日常会話ができるレベルを想定しています。一方で、読み書き等は、その方々の力の中でできる範囲で考えています。まずは、コミュニケーションに関しては、日常会話ができるぐらいのレベルから最終的にはB1B2C1あたりを目指していきたいと思っております。

続きまして、スライドの6と7ですね、先ほどの説明の中でもありましたけれども、中級クラスと上級クラス2つに分けますが、内容は共通したこのよう

な形で進めてまいります。

またスライド7に、庁内各課と連携してとありますが、表の5つの課、(予定)と入っていない課には、もう既に働きかけを始めております。オリジナル教材とございますが、基本的には私が教材を作って、これでいいかどうかというところを各課にお諮りします。今進めているのは、例えば町会とは何かを日本人向けのパンフレットをベースにしてですね、外国の方にもわかりやすく説明する、という教材を作るところから始めております。

これは中級レベルであっても上級レベルであっても、この部分に関しては同じですけれども、それぞれ日本語表現に関しては中級、上級それぞれのレベルに合った内容をニーズも聞き取りながら準備を進めていきたいと考えています。

続きまして、スライド8のスケジュールですけれども、先ほど午後8時から開始とご説明いただきました。これは、当初午後7時半ぐらいからを想定していたのですが、やはり皆さん家庭を持って、お仕事ももちろんなのですが、夕食の準備をして、ちょっとゆっくり座ろうとなると、なかなか7時とか7時半からの時間では難しくですね、8時ぐらいからであればなんとか参加できるかな、という声を当事者の皆さんから多く聞きましたので、少し遅めかもしれませんが、こういった時間帯にしてあります。

この教室は皆さんからご希望があれば、見学も自由と考えていますし、地域のボランティア教室の皆さんや、関係の各課の職員の方も業務時間外にはなってしまうかもしれませんが、ご見学いただければ、というふうに働きかけていきたいと考えています。

そして最後にスライド9検証方法ですが、この点に関しましても前回の会議で、成果指標を設けしっかりと検証すべきと委員の方からご提議いただいた、とお聞きしております。

この日本語教室は、単に個人の日本語能力を上げていくというよりも、そこにとどまらず、この地域の多文化共生に資する教室でありたい。また多文化共生推進プランの中で掲げられている、キーパーソン・ネットワークの登録者数を伸ばしたりですとか、あとそれからキーパーソンの方たちからも、より多くの情報がコミュニティに発信されるような、そんなきっかけとなることを期待しておりますので、指標の中にもそういった数値を盛り込みました。

発信件数に関しては、もちろん一つ残らず漏らさずということは難しいかも

しませんが、把握できる範囲で、こういった数字を指標としながら、目標として進めていきたいと考えております。

この後、委員の皆様からぜひとも活発なご意見またはご質問等いただいてそれに対してお答えをする形で、より深めてまいりたいと思いますので引き続きどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。以上です。

会長

事務局の皆様、そして佐藤さん、どうもご説明ありがとうございました。

こちらの地域日本語教育推進事業に関しまして、ぜひご意見等ございましたら、どうぞ遠慮なくご発言ください。

委員

今まで私が日本語を勉強したボランティア教室とは違い、ただ日本語を勉強するだけではなく、明らかにすごいビジョンのある教室で、とてもいい教室になると思います。参加します。

松本市地域日本語教育コーディネーター

ありがとうございます。ぜひご参加お待ちしております。幅広く希望する外国人の皆さんを受け入れたいと思っています。

従来、地域に日本語教室があり、さらに10以上の教室がこの規模のまちなあるというのは、おそらく全国的に見ても松本市ぐらいだと思っています。それは、これまでの歴史的なところを考えると社会教育、公民館活動が盛んであるというところが、やはり非常に重要なポイントで、もう25年以上前から、芳川公民館や中央公民館などの各公民館で教室が開催されてきた、ということが松本市の特徴の一つでもあります。

それらの教室との連携も、今回非常に重要に捉えています。地域の日本語教室、これは長野県というよりも、もう全国共通した悩みなんですが、日本人社会側に、もはやボランティアをする余裕がなくなり、各日本語教室が高齢化あるいは担い手不足で、急激に数を減らしていているという現状がございます。例に漏れず、やはりこの松本市においても、皆さん非常に熱心に活動していらっしゃるんですけども、コロナ禍もあり、学習者、支援者ともに大きく減少

してきている教室が多い、というところが一つの特徴になっています。ですので、そういった皆さんをサポートしたり、あるいはこういうオンラインを活用した形であれば、新たな支援者を掘り起こしたり、新たな学習者が参加してくれたりってというようなことにも繋がる事例の一つになればと思って今回取り組んでまいります。

会長

持山委員さんは、もう 10 何年前ですかね、日赤乳児院の日本語教室で、日本語の勉強をされ、それからいろいろな活動をされ、今日着ていらっしゃるような着物の師範にまでなられ、外国の方、日本の方にも、着物文化というものを伝えてくださっている。キーパーソンにも登録いただき、キーパーソンとしても活動していただいている、そういった方になります。今回参加していただいている陳委員もそうですね。そういった方たちに、キーパーソンとしてさらに活動していただくためにも、松本市の仕組みであったり防災であったり、様々なことを学んでいただき、同時に日本語交流員として参加する日本人たちにも、どんどんネットワークを広げていただき、それで市のことも分かり、より多くの日本の知識を増やし、もちろん日本語レベルもさらにブラッシュアップしていただくっていう形で進めていければと思います。

他にご意見ご質問いかがでしょうか。

委員

大変ありがたい取り組みだなんていうふうに思ってお聞きしました。質問としましては、こちら 10 回の授業ということで、これだけの広範囲の内容をカバーする。しかも 1 回の授業が 90 分で、週 1 回ですよ。これは語彙を中心に授業をするということでしょうか。

松本市地域日本語教育コーディネーター

はい、ご質問いただきありがとうございます。

まずですね、この計 20 回という回数がそもそも長野県の補助金で上限の回数と定められております。県内で今実施している、あるいは、これまで実施してきたモデル教室は、全て年間 20 回以内で行っております。

これが社会教育であるのか、言語保障のための教育であるのか、というところは、本来であれば、きちんと分けて議論をするべき点だ、というところは十分私も承知しております。

ただ、いかんせん文化庁の予算もそうですし、県の予算もなかなか、言語保障とうたうまでには、回数的にも金額的にも十分ではないところです。その中で、多文化共生を進めつつ、学習者の知識とか表現力といった言語能力を上げていくことを考えています。具体的には、例えばですけれども、介護保険の場合、通訳をする際あるいはコミュニティの方から「介護保険って何？この払っているお金はなんだろう？」って聞かれたとき、あるいはご家族の介護が必要になったとき、きっと「要支援」とか「要介護」とか、N1まで勉強しても出てこないような言葉が、かなり入り口の部分から多く出てくると思うんですね。ですので、まずはその仕組みと言葉をセットで、学んでいただき、この事業をもし来年度以降もやっていくことができるとすれば、さらに毎年積み上げていくような形で教材を作成し、少しでも学習者ご自身の知識を深めていただき、また地域に伝えていただく際の理解の助けになるというようなことが、この教室でできればいいなと考えております。

会長

住んでいる方への言語保障ですよ、それを国がどれぐらい本腰を入れて行くか、言わばその予算が文化庁に今はないということです。

それを文化庁としても、長野県としても、松本市としても、本当にやれる範囲で、できることをやっていこうという状況です。その一方で、こんなことをやっていたら優秀な外国の人は日本には来ない、というのも現実です。それに対し、今後、国が多文化共生基本法なり本格的な体制を整えていくかだと思えます。

他の皆さん方、ご意見いかがでしょうか。

委員

中級クラス、上級クラス、2つのレベルがありますが、両方に入ることはできないのでしょうか。

松本市地域日本語教育コーディネーター

一応オンラインで進めやすい人数ということで、各クラス 15 人程度を定員としていますので、その定員を超えた場合には、どちらかのレベルだけで、というふうにお願いするかもしれませんが、レベルごとに曜日を変えておりますので、人数が許せば両方に出ていただくことをお勧めできると思います。

おそらく当初は「自分がどちらのレベルなのかが分からない。両方出てみたい。」という方が当然出てくると思うので、人数が許せば、両方のレベルへの参加をお勧めしたいと思います。

ただ、先ほどの資料の中でもありましたように、中級も上級も「キーパーソンとして必要な知識」が、同じ週に参加された場合、テーマ的には重なってしまう部分はございますので、その点はご了承ください。

また、先ほど補足し忘れたんですが、授業の最後に、市からコミュニティに伝えたい最新の情報を提供する時間を 10 分ほど設けます。こういった一次情報を得られるということも、ここに参加していただく外国人の皆さんにとっては、メリットにもなると思います。同時にですね、庁内の職員向けに「今松本市でこういう教室を立ち上げています。もし外国の方に伝えたい情報があったら、お知らせください」というようなことを、庁内で周知することによって、こういった日本語教室が行われるということですか、外国の皆さんがキーパーソンとして存在するということを職員の皆さんにも知っていただけたらいいな、というふうに考えております。

委員

中級レベルと上級レベルとありますが、どうやってレベルを選べばいいでしょうか。

松本市地域日本語教育コーディネーター

もちろんご本人のご希望もあるかと思いますが、すごく日本語を話せる方でも、「私は中級から勉強したい」という方がいたら、中級を受けてもいいんですけども、基本的には今回の教室に参加したいという方がいらっしゃったら、まず私がその方と Zoom で面談をします。それには二つ意味があって、一つはその方が Zoom で授業を受けられるネット環境があるかどうか、スマホからでも、

もちろん構わないんですけども、ネット環境があるかどうかということを確認します。二つ目は、この事業の趣旨を理解していただいて、単に日本語力を上げるというよりは、キーパーソンとしての活躍を私達は期待しているんだよ、ということをお伝えした上で、その会話の中からレベルを測らせていただいて、こちらのクラスにひとまず入ってみたらどうか、ということを私からご提案しようと思っています。ありがとうございます。

会長

今少しお話もありましたが、市として参加者の募集の仕方は、こういった形になるでしょうか。

松本市地域日本語教育コーディネーター

これは、そもそも CTN に委託を受けているので、基本的には周知も含めて、CTN で図っていくべき問題だと考えています。やはり趣旨をご理解いただくというところは、非常に大きなポイントですし、合わせてオンライン環境があるということも求められるので、まず一番有効であることは SNS での発信だと考えています。それを皆さんがどんどん広げていただくことによって、情報がより広く、コミュニティの中で広がっていくと考えていますので、まずは SNS での周知を図っていきたいと思いますし、同時にこういった事業を市が行っているということを市民の皆さんに知っていただく必要もありますので、新聞等のメディア報道も活用していきたいと考えています。

会長

もう開始まで1ヶ月と10日ですかね。まだ周知がどれくらい進んでいるかわからないところですが、ぜひお願いいたします。

他の委員さんから、いかがでしょうか。

委員

ご説明ありがとうございました。非常にシステマティックで、ビジョンもあるから、とても素晴らしい計画だと思います。これが成功するかどうか、目的を先ほど三つ示されていたと思いますが、やっぱり一番大きな目的としては、

キーパーソンのネットワークをいかに構築していくかっていうところだと思います。

今、佐藤コーディネーターがおっしゃっていたように、事業の中でそのマインドを作っていく。行く先にはキーパーソンとして活躍していただいて、松本市の多文化共生社会の実現に一役を買ってくださいね、というところだと思うんです。

これは、募集の時に、将来キーパーソンに登録してもらいますよってということが条件になりますか、それともそれは言わないですか。

松本市地域日本語教育コーディネーター

ありがとうございます。先ほどお話しした面接の際にですね、こういうことを目的としているので、できればキーパーソンに登録をしていただきたい、ということ強制ではありませんが、ぜひお願いという依頼はしてまいりたいと思います。また、私自身がSNSで発信する際にも、その点をしっかりとご理解いただけるような表記、表現を使っていきたいと考えております。

今マキナリー委員がおっしゃっていただいた通り、私ども松本市多文化共生プラザの運営も受託していますが、現在多言語相談員として活躍してくれている外国由来の相談員の皆さんも本当に若手がいなくてですね。10年後、そもそも多文化共生プラザが存在し続けられるのか、というところを非常に私は強く危機感を持っています。もう今からそういった方を育成し始めなければ、掘り起こして育成を始めなければ、そういう方が自然に現れる訳では当然なく、本当に奇抜なボランティア精神で、ご自身で日本語能力をブラッシュアップしてきた皆さんが、今かろうじて支えてくださっているわけですが、その後継者を育成していくことは急務だと考えておりますので、そういった方も今回の取り組みの中から見えてくればありがたいと考えています。

委員

ありがとうございます。そこが公民館などの日本語教室と大きな差別化のところだと思うので、ぜひここからキーパーソンのネットワークの方に登録していただけるようなマインドセットアップをよろしく願いいたします。

松本市地域日本語教育コーディネーター

ありがとうございます。

また、公民館で行われている日本語教室の方から、N2レベルの方など十分に会話ができるようになった方の繋ぎ先がこれまでなかったが、そういう方を今回の事業に繋げば、この地域で活躍してくれるかもしれない、そういう繋ぎ先ができたことはありがたい、というふうに言っているところもございますので、そのような役割も担っていきたいと考えています。

もう1点補足で、県内で3年のモデル教室を終了し、その後、松本市のように事業継続に至っていない自治体の背景として、やはり地域に既に日本語教室がある場合、その教室との差が何なのかというところと、地域で無償でボランティアをやっている人がいるのに、この事業は日本語交流員にも謝礼が出ることや地域の中で整合性を図ることができない、ということが県内の他市で実施ができていない理由です。

地域の日本語教室にも日本語教師の資格をお持ちの方もいらっしゃいますが、数としては非常に少ない。では、どう日本語教育を担保していくか、というところを考えたときに、きちんと庁内で整理をしていただいて、こちらの教室ではコーディネーターと教師は専門家要件を求めていますので、そういった専門家で日本語教育を担保し、地域住民には日本語交流員として、日本語を教えるのではなく、会話のパートナーとして、参加していただくという体制を作っていく。そういうところが、地域の日本語教室との差別化でもあり、またここで掘り起こした学習者や支援者を地域の日本語教室にも繋いでいく、ということがこの教室のハブとしての一つの役割だと考えています。

会長

ご説明どうもありがとうございました。それではこちらの議事については以上としまして、次に2番目の議事としまして、令和4年度多文化共生キーパーソン事業につきまして事務局の方からご説明よろしくお願いたします。

事務局

(「令和4年度多文化共生キーパーソン事業」について、資料を用い事務局から説明)

会長

ご説明どうもありがとうございました

第3次多文化共生推進プランで、キーパーソン登録者の令和7年度の目標人数は50名ですよね。ですから、既に72名いて、5年後の目標はもうクリアしたということになりますね。

こちらのキーパーソン事業ですが、2011年に第1次の多文化共生推進プランができたときから書かれてはいたものの、実は有効に機能はほとんどしておらず、第1、第2次ともにあまり進展が見られませんでした。

それがこの第3次から非常に議論が進み、第3次プランの策定と同時に、キーパーソン登録証の発行、そして様々なインセンティブですね。私もこの前留学生を連れて松本民芸館に行ってきましたけれど、私自身もこちらのキーパーソン登録証で無料になり、留学生たちはインビテーションカードで無料になりました。そういった形でもキーパーソンの皆さんにもご利用いただけますし、今年は昨年のような大雨の大きな災害は、今のところありませんけれど、LINEで市から災害時の情報をダイレクトに入れていただける、というのも非常にありがたいことだと思っております。

皆さま、ご質問またはご意見等ございましたら、どうぞよろしく願いいたします。

委員

質問なんですけど、キーパーソンって非常に重要な役割であって、その彼らをいかに活かすかというか、そこをいかに張り巡らしていくか、というところが、多文化共生社会の実現にもものすごく大きなキーになっていくと思うんですね。そして、キーパーソンが持っている情報が非常に貴重だと思うんです。キーパーソンが直接持っている課題とか、地域に住む方から聞いてきたこととかいっぱい課題があると思います。

それをどう町内とか、または松本市が吸い上げているかっていう、そのシステム、例えば定期的にヒアリングをやるとか、またはキーパーソンの定期的な定例会で発表してもらうとか、もしかしたらそういうシステムがもう既にできているのかもしれませんが、そこが非常に重要なのではないかなと思います。

そうでないとキーパーソンの肩にみんなかかってしまう。キーパーソン自身が1人で解決しなきゃいけないと思ってしまうこともあるだろうし。ですので、その連携、地域との連携っていうところの仕組みをお聞かせください。

事務局

ご質問ありがとうございます。お答えいたします。

キーパーソンのご意見を吸い上げる仕組みについてですけれども、まずこの協議会の場がその一つかと思えます。外国人キーパーソンに委員として入っていただいて、この協議会の場でご意見を出していただくことで、当事者のご意見を施策に反映していくことができると思えます。

二つ目が、先ほどご説明しました通り、まだ3地区でしか実施できておりませんが、実際に自分が住んでいる地区の地域づくりセンターなどの職員に直接ご意見を伝えていただく会ですね。今回は、きっかけ作りのような場だったんですけれども、今後も関係を築いていく中で、外国人の方の意見を地区の中でも取り入れていただくような関係構築ができていければというふうに考えております。

三つ目が、キーパーソンの研修会です。昨年度も実は、研修会の中で「松本市の多文化共生を進めるには」というテーマについてグループワークで考えていただいて、それを発表していただくような機会を設けたんですけれども、そういった研修会の場ですね、キーパーソンの方々からご意見を伺っていければというふうに考えております。

会長

はい、説明どうもありがとうございました。

今話がありました資料2の3枚目、地区地域づくりセンター・公民館とキーパーソンの連携というところが本当に画期的なことだと思います。こちら2010年ぐらいから話し合っているながら、12年経って本当に今動き始めた。人権共生課の皆さんは多文化共生の学習もし、意識の高い職員でいらっしゃるんですけど、やはり市の職員全員がそういうわけではなく「自分の地域に外国人なんているのかね」という地域づくりセンターの方や町内会の方もいらっしゃる。そういった中で、キーパーソンがこの人権共生課の皆さんと一緒に地域

づくりセンターに出かけていき、そこでセンター長であったり、重要なスタッフの皆さんと顔を合わせて話をさせていただき、まずは市の職員に「この地域にこんなすごい人がいたんだ。地域の中でいろんなことをしてくれているんだ」ということを知っていただく。さらに、田川地区で予定されているような、キーパーソンが公民館長研修会で話をさせていただいたり、地域の人に向けて料理会をしていただいたり、地域の人たちと触れ合う場ができることで、職員だけではなく、その地域にいる一般の日本の人たちが、こういった人がそこに住んでいて、こういったことを聞けるらしいぞ、っていう認識をどんどん広げていただくこと。これは非常に大きな意識改革だと思います。

地域づくり課長と今年話したときも 35 地区全部でこれをやらなくても、15 地区ぐらいでこういう形が動き出したら、自然と 35 地区に広がっていくよっというような話も、彼の予想ですけど、聞いております。

今は 3 地区で、少しずつ始めたところでありましてけれど、15 地区ぐらいまで重要なところで固めて、進めていただければなと思います。大変かとは思いますが、ぜひよろしくお願ひします。

私の方でも新しくキーパーソンの情報などありましたらお伝えします。

では他の皆さん方、いかがでしょうか。

委員

私も一応キーパーソンに登録をさせていただいているんですが、なかなか活動の部分で、自分は何をしたらいいんだろう、あるいはそのきっかけとなる部分で、LINE の情報なども見させていただいているんですけど、やっぱりどのように動いたらいいんだろうっていうのが、なかなか分かりづらいと言いますか。例えば、説明にあったような関係作りの場が地区であれば、ぜひ参加したいと思いつつも、自分から積極的にそういう発信がなかなかできないっていうことはあります。正直なところ、キーパーソンになっているだけかなっていうのが、今の印象で、何かやりたい気持ちは重々あるんですけど、そういう意味できっかけとなるような場が設置されたりすると非常に嬉しいなという気がしています。

やはり、自分の住んでいる地区を歩いたりしていると、この方は外国から来られた方だっていうのは、分かったりすることもありますけど、なかなか把

握しきれない中で、自分が何かあったときにお手伝いできればいいなと思いつつも、ちょっと難しいなあという感じがしています。

それと、しばらく外国に行っていたんですけど、日本を取り巻く外国の方々の印象っていうのが、結構変わってきているなっていうのを感じています。やっぱり、あまり日本に対しての印象が良くないんです。その中で、先ほどの日本語教育推進事業の話もそうなんですけど、政策的な部分、財政的な部分でのバックアップをもっと手厚くしていかないとなかなか厳しいなっていうのを思いながら、どんなことを僕らはやれるんだろうっていうのを、逆にこのキーパーソンの集まりみたいな中で、そういう議論をしたりとか、前の多文化共生セミナーは、非常に私も画期的なセミナーだったなと思っているんですけど、ああいう機会をもっと広げていけたらいいなあ、というのを感じたり、ちょっとまとまりのない話になってしまいましたけれど、今日はその意味で改めて考えさせられる部分が多々あったなと思います。

会長

ありがとうございます。日本人のキーパーソンの生の意見として、非常に貴重なものだと思います。具体的に何をすればいいか、どう関わればいいのか、気持ちはあるけれど、なかなか場がない。

やはりさっき言った田川、里山辺、松南、3つの地区で動き始めているっていうことなんですけど、やっぱりこういったところで動くときにその地区にいる、日本人のキーパーさんにも声をかけていただいて、日程が合わなければしょうがないんですけど、外国由来の方と日本人のキーパーソンで、地域づくりのセンターのセンター長であったり職員の皆さんと、まず顔を合わせる。その上で、その地域でこんなことやっていこうかっていう動きがどんどんできてきたらと思います。ぜひ日本人のキーパーソンの方に段取りであったり会場手配であったりを頑張ってもらったり、関わっていただければ。

それから資料に10月23日に外国人向け防災講座っていうのがございますけれど、キーパーソン・ネットワークが第3次プランの前に大きく動いたのも、やはり防災の面でキーパーソンは非常に有効に機能するんじゃないかっていうことを市の職員の皆さんのほうでも考えていただいたことが大きかったと思います。その点、日本人のキーパーソンの皆さんにも、松本市の防災状況を学ん

でいただき、そして外国の方はここら辺に住んでいらっしゃるなどという程度の状況把握と、あの人たちはちゃんと逃げているのだろうかと気にかけてもらえれば。

ただ、災害が起きた時のサポートについて、私が考えているのは、もう日本人よりも若い外国人のほうがパワーがあって、活力があって、日本人のおじいちゃん、おばあちゃんを助けてくれる存在なんじゃないかということです。さっき外国で日本への評価はちょっと下がっているっていうご意見もありましたが、そういうように状況はいろいろ変わりつつあります。外国の人は助ける対象と決めつけるのではなく、外国の人に私達がいざというときには、救い出してもらい、炊き出しから何から、彼らにやってもらうであったり、そういった状況が日本社会でも、起きつつあると思います。ただ、そういった意識の改革は一般的には全く進んでいないのが現状です。

そういうのも含めて、キーパーソン・ネットワークに関しましては、基本法ができる前からでも、かなり進められるところは進められる。意識とこちらのやる気ですかね、それで進められる面もある程度あるかと思います。そういう意味では着実に進めていきたいと思います。

他の委員さんからどうでしょうか。

委員

お話を伺った中でいくつか質問をさせていただければと思います。キーパーソン事業について、今まで72名の方が登録になっていると数字が出ていますが、このキーパーソンの方っていうのはどういう選定で、試験を受けたとかお聞きできますでしょうか。

事務局

ご質問ありがとうございます。キーパーソンの登録者ですが、こちらで選んでいる訳ではなく、申請をいただき登録をさせていただいているものです。

外国人の方だけでなく、日本人の方にも登録いただけます。外国人の方に関しても、特に日本語能力などの要件を設けているものでもございません。登録者のうち6割が日本人の方で、4割ぐらいが外国由来の方というような構成です。

委員

分かりました。ありがとうございます。

先ほどお話がありましたけれど、講習会とかで、キーパーソンが顔を合わせるといことは、現在行われているわけですか。

事務局

はい、昨年度1回行いまして、資料にございます通り、今年の12月頃にまた行う予定です。

委員

分かりました。ありがとうございます。

現在、私ども320世帯ほどいる町会です。棟ごとに役員を選んでいただくんですが「うちの棟は外国の方が多くて、町会の役員は頼めないんだよね」という話もあったりだとか、あるいはその町会に住んでいる外国の方とは、特定できませんけれども、例えばゴミ出しのルールが一部守られていなかったりとか、という話もあります。ゴミ出しのルールは、日本語のほかに中国語などで書かれたものも数種類用意してあって、お渡しはしているんですけど、なかなかルールというのが、もちろんコミュニケーションも含めてだとは、思うんですけど、伝わりにくい部分があるのかなという気はします。

先ほど、日本語教室の説明で、授業を10回やるとありましたが、全部英語で授業されるということでしょうか、それとも国ごとに翻訳された資料か何かで進められるということでしょうか。

松本市地域日本語教育コーディネーター

はい、ありがとうございます。日本語教育なんですけれども、基本的に「あいうえお」の段階から、日本語のみで日本語を教えるというのがベースにはなっています。

ただ、もちろんですね、そういったいわゆる「やさしい日本語」とか、そういった技術だけでは十分ではない、確実に伝えなければならない部分に関しては、多言語化することも考えてはおりますけれども、今回に関しましては、レ

ベルが中上級ですので、最低でもこれぐらいの会話はできるような形を想定しています。ですので、今回の教材を多言語化することは、考えておりません。

ただ、キーパーソンの方が日本語で理解をしてくれた情報を SNS 等で発信するときには、それぞれの皆さんの母語で発信してくださると思うんですね。そうすれば、今回の教室を受けた方が、その方のコミュニティの中の、日本語はまだあまり分からない方に、母語で情報が届けてくれるというところを期待しております。

会長

ありがとうございました。

先ほどの団地の中でのゴミの件などは、日本人そして外国人のキーパーソンの方がいらっしゃるのであれば、それこそ「ゴミの説明会を月に1,2回やるから集まれる人来て」という形もあるかと思います。正直言いますと、多言語の資料って、渡すだけではあまり役に立ちません。外国人の方は、日本人以上に読まないです。

委員

動画だったら観るんですけどね。ただ、動画の下に字幕があっても、あまり読まないですね。

会長

行政の皆さんは「多言語でこれだけ作って、これだけ用意した」と言われるんですけど、「お金の無駄だよね」というのが、いつも思っていることで、本当に読みません。

最近若い日本人も読まないんですよ。信大生でも、説明して文書を配っても読んでないです。説明聞いても分かってないです。だからトラブルが多いんです。日本人の大学生でそうですから、外国の人に「いろんな言語があるから読んでね」というのではなく、たった20分でも「ゴミってこうなんだよ」とって1人に説明すると、その人からコミュニティの人に「ゴミって実はこうらしいよ」とって話をしてくれることもあります。そういった顔を合わせる場の時に、初めて翻訳してある資料も役に立ちます。

そういう機会が日本人と外国のグループが仲良くなるきっかけになったり、その後の楽しい共生に繋がっていくんじゃないかなと思いますので、何かそういった形で、進めていただけたら何よりかと思います。

松本市地域日本語教育コーディネーター

先ほども持山委員から「動画があれば」というご提案があって、確かにその通りだと思いました。今回の日本語教室がオンラインである理由の一つは、コロナのこともあってですね、どんな状況であっても学びが止まらないということは大事だと思うんですが、一方で、もし対面でできる機会があれば、何か楽しい料理会等もやってもいいんですが、みんなで動画を作ってみるとかですね、日本人よりも、たぶん外国の皆さんの方が動画で発信するって、とても慣れているので、一緒に協力し合いながら、各国の情報を動画で発信するというのも、状況が許せばやっていきたいなと考えています。10回ずつの授業の外での取り組みになりますが、何か対面で繋がるような機会ができればやってみたいなと考えています。ありがとうございます。

委員

今はTikTokっていうアプリがすごく流行っていて、踊りだけじゃなくて、着物の世界もそこでどんどん発信している感じなんですよね。帯の結び方とか。

例えば、提案ですけど、ゴミの分別とか短い動画で発信すると、情報が伝わりやすいかなと思います。松本の方だけじゃなくて、いろんな方にも見てもらえると思います。

会長

動画+SNS という最新の方法で、実は根源的な問題である、ゴミの問題解決というものが進むかもしれませんね。

委員

キーパーソン・ネットワークの中に、ITチームを作るといいかもしれませんね。ネットワークがどんどん大きくなると、そのネットワークの中で専門的になっていって、例えばSNSの発信チームとか、そういうのができて、自分がど

こかのチーム入っていると、より活動しやすいんじゃないかなと思います。やっぱり自分の強みとか、自分の国を活かして、例えばフィリピンチームであったり、英語圏チームであったりとか、そういうふうにして人数が増えていくと、活動しやすいような小さなグループにしていくっていうのもありかなと思いました。

会長

日本人のキーパーソン皆さんの活躍の場にもなりやすいかもしれないですよ。ありがとうございます。

他の委員さんからもいかがでしょうか。

委員

キーパーソン・ネットワークのメンバーの方たちは、何かやりたいっていうふうに思ってくださっている方がやっぱり多くて、何かTikTokとか得意な人がやってくればいいのになと、そういうことをやってくださる方を募るっていうのもいいかなって私も思いました。

先ほどの江森委員のお話を伺いながら、また今日多文化共生に心を寄せてくださる方が1人増えたという感じを受けまして、こういうふうに1人ずつ心を寄せてくださる方が増えていくのが嬉しいな、というのが率直な感想です。

ごみ問題、もうずっと長くいつも出てくる問題ではあるんですが、心に留めておきたいと思っているのは、日本人もルールを守っていないんです。江森委員の町会がそうだよ、って言っている訳ではないんですが、出し方が悪いのは、外国の方が比較的多いことは事実だと思うんですが、絶対日本人もきちんとやっていない。私の町内でも、日本人と思われる人しか住んでないところでも、ひどい出し方があって、町会に文句を言ったことがあるんですが、なので、私としては「また外国人がゴミの出し方が悪い」と言われるのが悔しいので、そうならないようにサポートしてあげたいなっていうのを思っています。TikTokとか何かできることがあればなって思います。取り留めもない話になりましたが、ありがとうございます。

会長

ありがとうございます。実はいろいろなことが情報共有がなく、思い込んでいることってというのは、ものすごく多いですね。

他の委員からもお願いします。

委員

キーパーソン、本当にいい試みで私も地域の日本語教室で活動させていただいている流れからキーパーソンにも登録いたしまして、もう少し積極的に参加したいなと思っているんですけども、一つ思うところがありまして、やっぱりエリアが集中してしまっていると思うんですね。Mウイングの辺りとか、南松本の辺りとか。きっと、そういったエリア外にも、外国の方や日本の方で、ゴミ出しとか、いろいろな摩擦が起きていると思うんですね。勝手な想像ではあるんですけども。

できれば、エリアも集中するのではなくて、さっきの話じゃありませんけども、拡散する方向にいけたらいいのにな、と思います。そのためのオンラインとかTikTokであるとかSNSであると思うので、そういうところを皆さんと協力し合って広げていけたらなと思っております。

会長

ありがとうございました。

まず今年、3地区に始めたっていう状況。それをどれぐらい広げながら、始まったところは、深めていけるか。そういうところなのかなと私自身は見ています。何度も言いますが、11年間ほとんど動いていなかったものが、今年になって、この3地区で人権共生課の職員が各地区に、外国由来のキーパーソンや日本の方を連れて行ってくれたっていうこと、これは巨大な、本当のスタート点です。

ただ、私としては、もう少し広く、地区だけではなく、誰でも緩く参加できるものもいいと思います。例えば資料に県ヶ丘高校の授業への参加ってありますけど、実は昨年度は8月の下旬にもうこの活動は済んでいるんですよ。

これは県ヶ丘高校の高校生と外国由来・日本人のキーパーソンが60人ぐらいが参加して、Zoomのブレイクアウトルームで高校生3人くらい、キーパーソン2,3人で話し合いました。午前中は、それぞれ、自分の日本・松本市での経

験を高校生向けに話したり、日本で生きることの大変さや楽しさであったり話をもらい、午後は高校生と一緒にどうすれば松本の多文化共生を良くしていけるかっていうのをそれぞれのグループで考え、高校生が発表するという活動でした。

今年も、昨年のような形でなくても構わないんですけど、キーパーソンの皆さんが参画しやすいような形で行えれば、高校生の学びの機会にもなります。そういったものを、ぜひ進めていただければと思います。また、研修会も大事なんですけど、研修会はやはりキーパーソンだけになってしまう面もあるので、ある程度もっと地域の人や一般の人とキーパーソンが繋がり、そして活躍ができるような場ができればなというふうに思っています。よろしく願いいたします。

事務局

キーパーソンの方がMウイングや南松本周辺に集中しているんじゃないかというご意見ございましたけれども、確かにこのMウイング周辺ですとか、あとは南松本などの人口が多い地区は、キーパーソンに登録いただいている方も多いうような傾向はございます。

一方で人口が多くても、例えば西部地域ですとか、キーパーソン登録者や、そもそも外国人住民がほとんどいらっしゃらないという地区もございます。

今回、田川地区、里山辺地区、松南地区で実施させていただいたのも、外国人のキーパーソンの方だけに声掛けしたのではなく、その地区に住んでいる日本人キーパーソンも含めて全員にお声掛けをしておりますが、やはり外国人のキーパーソンが比較的多い地区を優先的に選ばせていただいております。

あと、地区の特徴を見てですね、実は田川地区は、全35地区の中で2番目に外国人の割合が高い地区です。一番高いのが城東地区で、これは多分信大の国際交流会館があることが理由かと思っておりますので、恐らく長く住んでいる方が多くかつ割合が高い田川地区を最初に選ばせていただきました。結果として、資料にある研修会にも繋がってよかったなというところなんですけれども、例えば外国人の方がほとんど住んでいない地区でもですね、多文化共生に興味をお持ちの日本人もいらっしゃるかと思っておりますので、ご意見いただいたとおりSNSなどを通じて、このキーパーソン制度の周知を引き続きやっていきたいと

考えております。ありがとうございました。

会長

ありがとうございます。他の委員さんからもいかがでしょうか。

委員

自分が在日台湾人のいくつかのグループに参加しています。グループの中で、日本の情報を流したり、質問に答えたりしますが、台湾の情報もお互い交流したり、写真やビデオを載せたり、仲良く助け合うグループがあります。こういう形もいいかなと思います。

会長

ありがとうございます。それぞれ台湾、フィリピン、タイといった、しっかりしたコミュニティがあり、母語でやり取りができる。そういったグループにいる方が、このキーパーソンになっていただいて、松本市の仕組みを学んでもらい、そして台湾語で台湾コミュニティの皆さんに伝えてもらう、もしくは困ったとき、プラザへ行けばいいんだよっていうのを伝えていただく。そういうふうな横の繋がりがコミュニティを中心にできていくことは大事だと思います。

ただ、コミュニティがあんまり強力になりすぎて、日本社会と分離するのだけは避けたいですね。それはドイツの中でのトルコ社会のように、ドイツ語は全くできなくてもトルコ語だけで生きていけるコミュニティが生まれてしまい、完全にドイツを敵視しているような地域がドイツの中にあるような、非常に悪い例が、コミュニティが強力になりすぎると生まれてしまう。

だから、私はキーパーソンっていうのは、その国同士だけではなく、日本の人と、それからいろんな国の外国の人が、やさしい日本語を使ったり、上級レベルでは、かなり上手な日本語でやりとりをしたり、そういった形で、日本社会の中で独立するのではなく、共生をしていてもらいたいなということで、このキーパーソン・ネットワークは大事だと思っています。

他の皆さん方、いかがでしょうか。

委員

一つだけお願いがあります。地域日本語教育推進事業ですが、もしその受講生の方から、警察に対する何か要望とかですね、そんなものがあれば、その内容について、共有していただければ、こちらで対応できるものあれば対応していきたいと思いますので、教えていただきたいなと思います。

会長

ありがとうございます。今のは日本語教室に限らず、キーパーソンからのほうがむしろ出るかもしれません。キーパーソン・ネットワークの場で日本の人や外国の人に対する行為っておかしいんじゃないのっていう、警察に対する意見があるかもしれませんし、こういったことがあって、なんていう話は留学生からも時々聞きますね。そういったことも含め、キーパーソンからもいろいろな意見が、ハローワークさんに対してもあるかもしれませんし、警察さんに対してもあるかもしれません。

松本市地域日本語教育コーディネーター

ありがとうございます。平成26年から文化庁事業の日本語教育をやったときにはですね、交通安全課の職員の方に交通安全について、いろいろお話をいただいたこともございます。また松本警察署の方も留学生に対して、いろいろな犯罪に巻き込まれないようなお話をいただく講座を、普段からやっていたいいることもお聞きしているのです、次年度以降もしこの事業が継続するようであれば、その時にはですね、そういった生活の安全面での講座もいろいろ協力いただきながら取り入れていきたいなと考えています。

会長

はい、ありがとうございます。とにかくネットワークが動き出した。ようやく卵の殻が割れたぐらいの状況で、ヒナになって大きく羽ばたくか、残念ながら殻が割れたんだけど、そのまま腐ってしまうのか。非常に大事な瀬戸際のところだと思います。事務局の皆さん方の姿勢として、非常に前向きに進めていただいているので、これからもぜひよろしくお願ひしたいと思います。他にご意見等はいかがでしょうか。

委員

やはり防災のところが、一番大事かなってというふうに思っていて、危険もすごく多いので、今日も町会長の方が来てくださっていますが、そういった方が災害の時に、地域住民の避難状況とかを把握してくださる方じゃないかなって思うので、そういう方の啓発の講座とか、あったらいいのかなと思っていて、それが何かキーパーソンに繋がっていければ、すごくコミュニティとして成熟していくんじゃないかなと感じました。

会長

ありがとうございます。そういった講座をとoshi、地域の日本の方が「あの人たちは避難所の場所知らないと思うから連れて行ってあげようか」なんていう形で、外国の方に声かけていただくこともあるかもしれませんし、逆に日本の方が外国の方に助けてもらおうという意識をもつこともあるかもしれません。

いろんな点で横の繋がりが広げることが、最強の防災対策ですので。阪神大震災のケースですが、亡くなった人のうち、かなりのパーセンテージを占めたのは、「友達・知り合いがいなかった、非常につながりが弱かった」というのは、とても有名なデータで出ています。外国の人に限らず日本の人のほうが、むしろ怖かったりします。外国の人はコミュニティで繋がっていたり、それぞれのコミュニティで大丈夫かって確認しあったり、そういったことがむしろあるかもしれません。

何にせよ、日本人・外国人、取りこぼさずしっかりと繋がっていくようにしていければと思います。

それでは、議論は尽きた頃かと思しますので、事務局にマイクをお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局

佐藤会長ありがとうございます。皆様には活発な議論をいただきありがとうございました。では本日の内容は会議録として作成いたしまして後日皆様にお送りさせていただきます。ご確認いただきまして何かご意見等ありましたらご連絡いただければと思います確認出来ましたところで、市のホームページ上に公開をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

では、以上をもちまして、第1回松本市文化共生推進協議会を閉会といたします。本日は誠にありがとうございました。オンライン参加の委員の皆様方もありがとうございました。